

有宵会だより

第48号
発行所
特定非営利活動法人
岳易館・有宵会
編集 広報部
松戸市新松戸1-64

九星と易断による

十二月・一月の運勢

気学では子十二月

十二月七日(大雪)節入

ア 生氣

6	2	4
5	7	9
1	3	8

天道

気学では丑一月

一月六日(小寒)節入り

破 天道 ア

5	1	3
4	6	8
9	2	7

生氣



一 白水星の人の運勢

十二月筮一水既済上六

一月筮一地雷復の六四

次々と気になる問題が続いたが見通しがつく。家族の厄介事はしばらく様子を見る。年末の整理は早めに処理、金銭は予算以上の支出あり。仕事は最後まで仕上げて吉。過労、胃炎、足腰痛用心。

一月は旧習を守り家族の絆に喜ぶ。わが家に年賀状と顔合わせに朗報あり。愛情面は豊かで特に未婚者の恋愛感情は高まる。金運は安心。小風邪、聴覚、神経休養。

二 黒土星の人の運勢

十二月筮一山沢損の六五

一月筮竹一雷火豊の初九

公私ともに慎重に対処強行策は禁物です。対人面は真意が伝わらず誤解あり。本業中心で他業に欲を出さない。金銭の貸借や利殖は損がらみの見通しと書類は必ず確認。循環器、目や歯痛の再発。

三 碧木星の人の運勢

十二月筮一水既済初九

一月筮一風水渙の初六

師走の風は冷たく体調に気をつける。仕事は労多く益少ないが堅実ペー

スで信用を得る。身辺の整理は日常生活から手を付ける。親子の絆と愛情を深める年末の喜び。風邪、気管、腰痛の対策。一月は背伸びせず何事も安全方針です。新春にふさわしく目標を決め一歩前進。故事と伝統を大事に活用す。見栄を張らず現実を重視する交際運。胃腸、神経や持病に注意。

四 緑木星の人の運勢

十二月筮一沢水困の九四

一月筮一水師の六五

十二月は多事に追われ

五 黄土星の人の運勢

十二月筮一沢天夬の九二

一月筮一火沢睽の上九

暮れの多事多用で骨折りが続く、気を抜かずに耐える。新しい出逢いを大切、自信過剰は大敵なので控え目に。仕事と信用は高まるが冷静沈着が第一。散財に用心のほど。もらい風邪や打撲に注意。年末が尾を引く忙しさと気遣いの一月になりそう、気分転換でリラック

スが必要、仕事の伸び悩みの場合は成行に任せたい。金銭の不具合に用心。疲労と足腰、血行に用心。

六 白金星の人の運勢

十二月筮一沢風大過九二

一月筮一沢風大過九二

十二月は目が回る忙しさがあるので心身の調整が大切。順調運の支えがあるので乗り切るでしょう。公私共に無理するの

七 赤金星の人の運勢

十二月筮一兌為沢の九二

一月筮一雷水解の六五

先を急がず慎重さで無事。才能や実力は控え目にするのが吉。仕事は個人より全体のために尽くし、強行策は避けること

交涉事や金談は締めよく処置。用事積み残しあり。過食、寝不足の生活遵守。一月は調子に乗らず油断は禁物です。活気はあるが期待通りの成果は上

八 白土星の人の運勢

十二月筮一震為雷の上六

一月筮一震為雷の上六

好調なときほど好事魔多し。何事も締めくくりが大切で人任せにせず。実力発揮のチャンス。情報に甘辛ものあり、必要内容で選ぶ、金銭支出のセーブと早飲み込みは損。動悸、血行、座骨膝注意。スムーズな年越しで新年の期待が高心が和む。公私の区別をハッキリさせて処理、聞き耳持てば得あり、我を張らず素直に交際、不意の消費多し。口と歯、のど風邪に対処。

九 紫火星の人の運勢

十二月筮一水山蹇の上六

一月筮一火地晋の上九

諸事にわたり自重運です。対人関係では気苦労が多いので深入りと失言注意。金銭支払いの確認と財布の管理を忘れず。多事多用で疲れ気味のた

め休養大切、年忘れが出るので円満処理で安心を。新年を迎え活気が出るので楽しみ。先を急がず状況を判断。今月の計画は改善策を採り実施。初仕事は気配りと夢を語ってみたい。親戚や知人との交際は無理押しせず。胃腸、痰咳、関節を自重。

福田 有宵

九月有宵会報告

今中 陽子

九月二十四日(土)足立区子供家庭支援センターに於きまして、NPO法人岳易館・有宵会が開催されました。

第一部 「書道と筆相」

第二回目

菅原有恒先生



前回同様、菅原先生からは詳細な資料を頂戴しましたので、要約を記載させていただきます。

まず、筆相・筆跡は毎日変わるもので、特に精神的な影響が大きいとされるものですので、自分の筆相・筆跡が悪くても、それはその日の状態なのかを見極めることと、練習により良い状態にもつていけるものであること知っておいて下さい。文字は一と、そして墨色が重要で、特に一はト

ン・ツー・トンと、止めるが基本で、起筆が初年運・仲ばす部分が中年運、収筆が晩年運と見ます。



筆相・筆跡の基本

「筆形十二態」
相続運の強いタイプ。人格者の文字。

上昇志向型。目的・心構えにより吉凶が分かれる。

穏やかだが消極的なタイプ。
竜頭蛇尾の傾向あり。晩年運が悪い人。

大器晩成の努力家タイプ。
心が弱く、誤解を招きやすいタイプ。浮沈盛衰のある人。草書・行書の場合には字の流れにそって書くものなので問題なし。

財と健康長寿に恵まれる吉相タイプ。ただし線が細く優美すぎれば保守的な小心者。

貧賤・孤独・短命の悪相。

楷書における掠れ字は萎縮している人。但し、草書・行書であれば、掠れを是とする書体なので問題なし。

大愚か奇人の文字。病点が見えたなら、賢愚はさておき健康に問題がある事多し。また、僧侶であれば線を刻む事で文字に奥行きを与える効果があるので問題なし。

病身、または妊婦の文字。

いわゆる歌舞伎文字。起筆を収筆に二陽があると見るので、どちらに進もうか迷っている相

「環字八秘」
右利きを基準としているので、右回りが一般的と見ます。左利きの人は逆になります。

物事を全う出来ないタイプ。一癖ある人。

正直勤勉の吉相。
慎み深く温順なタイプ。功成り名遂げる吉相。

物事途中で齟齬をなし、成功できないタイプ。定見なくフラフラする。

のんびり型。悠長に構えて好機を逃す。

せっかちのオッチョコチヨイ。

愚鈍に正直者。締まりがなくて頼りにならない。

病人で、筆形の と環字のような文字を書く場合、衰弱が甚だしい事を表す。

この他に、筆相を見る際に大切なのが、気宇と呼ばれるものです。

漢字は右側の部首を偏といい、左側を旁。上部を冠、下部を脚といいます。

気宇とは部首と部首の間の事を言います。気宇壮大という言葉があるように、気宇は広い方が吉相ですが、何事も中庸が大切。空きすぎは要注意です。

「金運」は気宇が広く、入り口があるが出口なし、凹凸があるものが良いとされます。

口や田など、どこが開いていてどこが閉じているか、文字の大きさなどがポイントです。

凹凸のない字では貯める場所がないので、入ってもすぐ出て行ってしまいます。

「栄達運」は末広がりが吉相。右傾は問題有りとなります。

見ますが、横書きやローマ字の場合は、書き進む方向が逆になりますので、左傾・右傾を逆に見ます。

文字は線の太さ細さ、強

弱で見ます。細くて力強い文字が最も吉相とされます。

文字は、接点は良くても交差は凶と見ます。普段強い線を書く人が、弱い線を書いた時は要注意です。

「様」という文字は筆相の宝庫といわれるもので、収筆におしゃれな点を付ける人は美的感覚には優れているので、年賀状が届いたらチエックして見るのも楽しいかもしれません。

なお、筆相は毎日練習をすれば三ヶ月くらいで良くなるそうです。この機会に、字の練習をかねて開運文字を習得してみたいと思います。

菅原先生、貴重なお話をありがとうございました。

「易と気学による月運判断」

福田有宵先生

十月は九紫中宮の月。一白は六白に同会するので忙しいけれど乾宮なので自分の実力を出す時です。遠慮してはいけません。家の用事も多々あります。

五黄に被同会するので、すぐに手を打つことが出来ない問題が飛び込んできます。時間を掛けて対処しましょう。被同会の場合は外(相手方)からやってくる問題です。

二黒は七赤に同会、六白に被同会。年盤の兌宮には暗剣と歳破がつくので金銭や交際面・発言は慎重に。年盤は運勢の母体となるものです。同会は年盤と月盤をあわせて見ると良いでしょう。

三碧は八白に同会し年盤の一白に同会、七赤に被同会。八白は家の中の問題が生じます。冠婚葬祭あり。また目下の人の問題が起きる可能性有り。

四緑は九紫に同会・暗剣、八白に被同会・破。最も厳しい運氣。精神的にダメージを被るので要注意。

年盤が二黒に同会しているので先月・先々月のペー入を守る。動いても好転せず。二黒の意味する古い友人との付き合い

は、



福田有宵先生

や実家・墓参りなどで精神的安定を図ると良いでしょう。

五黄は一白同会・**九紫**に被同会。年盤の**三碧**は動きたくてしようがないけれど、一白同会の際は大人しく慎重であること。

坎宮の時は望遠鏡で周りを見るようなもので、視野が狭くなります。

六白は**二黒**に同会。慎重に行くべきところですが、年盤では交際の星である四緑同会しているのので、動きたくなる運気です。

堅めの方針でいくことです。一白に被同会なので子供が言うことを聞きません。年盤の四緑の智慧を借りて解決すると良いでしょう。

七赤は**三碧**に同会、**二黒**が被同会。**三碧**は動きたいけれど、年盤に同会している**五黄**が足を引っ張って動きがとれません。被同会の**二黒**で定位対沖のため健康面、特に肝機能に注意。疲れが溜まる時です。また対人関係では対立に気を付ける事。

八白は**四緑**同会で破、**三碧**被同会。月盤の同会は破があるので、交際面では注意が必要です。年盤で同会している**六白**の方

法で対処しましょう。**六白**は乾宮なので年長者や識者の意見を取り入れる事。ただし、被同会が**三碧**なのでなかなか落ち着けません。

九紫は**五黄**同会、**四緑**被同会で暗剣、年盤は**七赤**同会。慎重に様子見をしましょう。金銭問題が出てきます。古い問題または今年の春頃の問題が浮かび上がってくる時。仕事関係は中断しやすいので要注意です。

個別占例
本命：七赤、月命：六白。
年盤で本命の**七赤**は**五黄**に同会するので古い問題が再燃しがちです。迷いが生じる場合は月命で判断することが有効です。月盤では**三碧**に同会。**五黄**はいつもの場所、**三碧**は急ぐで、いつもの場所を早足で歩いて転ぶ可能性があるので注意すること。

十月：風火家人の九五。
家人は文字通り、家庭を一番に考える事。出かける時も家を整えてから。仕事は十分な手応えのない時です。金銭面、特に交際費は控えめに。下旬に動きが出るけれども慎重に。

十一月：澤山咸の九四。
心がいつたりきたりしやすいところで、感覚が表に現れるときです。先々どうするか岐路にさしかかっています。いま手を付けていることは取りあえず続けましょう。健康面では腰・背中が張る。四爻は腰に当たる。いま治さないと水山蹇になつてしまつので早めの治療が大切です。

本命：二黒、月命：五黄。
十月は年盤の**九紫**に**二黒**が同会しますが、この**九紫**には暗剣がつきまです。話の食い違いが生じやすいので要注意です。暗剣の場合、相手方からくる問題です。十月は被同会が**六白**ですので、白黒を付けたくないので対処法を考えましょう。今年年盤で**二黒**は**九紫**に同会、被同会が**四緑**の外に出る機会が多く、評価される時期です。でも十一月は暗剣がつくので少し待つこと。

十月：地天泰の初九。
泰の中の泰。気楽にいく事。用事は月の前半に片付けましょう。現状維持を心がけると良いでしょう。

十一月：地火明夷の六五。
明夷は夜を意味します。夜は暗くて見通しが利かない時です。物事を進めると裏目出てしまいます。身体を休めること。睡眠が大切です。

周易や気字の応用として、絵や文字を見て書いた人がどんな人かを判断することもできます。福田先生は過去に、テレビ番組でゲストに「永」という文字を書いて貰い、それを八方位（定位盤）に当てはめて特徴ある部分を拾い鑑定したり、富士山の絵から山の高さ、や裾の広がり頂上が尖っているか平らか等でも判断された事がありだそうです。また、表札を見て、どんな人が住んでいるかも。この表札占いは文字がプロの字で書かれているので、どれも同じような綺麗な字体だったので、墨の濃淡や汚れや掠れ具合等をポイントに見るそうです。今年の十一月、来年十一月のうち六回程、昭和六十年代に福田先生が出演された「天才たけしの元気が出るテレビ」で放映したものの再放送があるそうですので、是非ご覧下さい。

福田先生、ありがとうございます。ございました。

今中 陽子

第三十八回松戸まつり
平成二十三年十月一日・二日行われました。

鑑定者 十八名 相談件数 二九四名

相談内容 仕事運五十

七名・結婚十八名・運勢

(今後の)六十名・健康

五十七名・金運十五名・

恋愛四十一名・家庭(子供を含む)二十八名・対

人関係五名・相続二名・

家相一名・方位(引越)九名・借金問題一名



松戸まつりのイベントに参加させていただいて

前野 佑林

平成二十三年十月二日は朝から雲の多い日で、今にも雨が落ちて来ても不思議ではないようでした。たまたま行き方を変えた私は案の定駅構内でウロウロ。やっと目的の地へ到着したのは十時半頃でした。

た。休日の松戸駅前には既に人と音楽でお祭り風情が一面に広がっておりました。あの陸橋から下を見下ろすと年配の方々が冬物の衣類を手に取り何やら楽しげにやりとりをされていきました。何処かで賑やかな音楽が流れていたと思っていたら、綺麗にお化粧されたご年配の女性達が揃いの浴衣と帯で、少し上気した華やいだ声で楽しそうに通り過ぎて行きました。そんな人達を横目に、NPO法人岳易館有宵会に所属している伊藤璃香先生はじめ諸先生方の前には首を長くして待ちかね顔の人々が列を成していました。十分前から始まった占いコーナーは例年のごとく大盛況です。あまりに大勢の人が並んで居るのを見かねた林加先生等が整理券を配り始めました。立ち並んで居る方々に番号札をお渡しし、生年月日と名前を書き込んで頂く方法でした。無料鑑定会とはいえ並ぶのを嫌がる人もおり、折角お渡しした用紙を戻される若いカップルもいらつしました。午の刻を回った頃にいよいよ私の出番

がやって来ました。鑑定が久し振りのせいか少し緊張して手が震えてしまっていました。トップバッターの方は昭和十五年一月十六日生まれ的女性で、健康についての相談でした。生まれ年は己卯の七赤金星。月は丁丑の六白金星、日干は戊午破持ちの乾宮傾斜の方です。子丑空亡で生まれ月の丑が空亡されていました。今年には傷官の年。本命七赤は中宮にあり、被同会は九紫火星の暗剣、破がついています。驚くことに最近の彼女は心臓の調子が良くないとの事でした。今年には自分の定位置の兌宮に九紫火星が回座しており、しかも九紫火星には暗剣・破とダブルで腰を落ち着けております。そもそも、先天盤の六白金星は、後天盤九紫火星の心臓の位置です。注意しなければいけない病気のことや、限られた時間の中でこぼされた愚痴などをお聞きし、最後には笑顔でお帰りになられました。まだまだつたない私の鑑定ではありますが、人様に希望を持たせて上げながら言い難い事も伝えなければいけない。心の中では

こんな偉そうな事を言える立場なのか？など自問自答しながらの、大汗握るも寒い一日を終えました。皆さまのご協力もあつた。皆さまのご協力もあつた。無料鑑定会も無事に終了した後、福田有宵先生からは食事の接待を受け、遠慮もせずご馳走になつてしまいました。ビールで乾杯し、軽い反省会をした後、来年に備え自分なりの高い目標を掲げ、チョッピリ名残惜しい今日の仲間の皆さんと別れ帰路に着いた次第です。これから先もこういつた無料鑑定会には、肝試しと腕を磨く為にもドンドン参加させて頂き、有宵会の名を世に広めて行くうではありませんか。

松戸まつりでの鑑定

長澤 光祐

金木犀の花の香りが漂い始め、秋が少しづつ深まって来た十月の一日、松戸まつりでの鑑定に出席するべく駅を降りました。すぐに人の群れの中にと呑みこまれ、回りをみると大勢の人の集まりが彼方此方に有りました。その蠢きに人の「気」を感じ、その大きな「気」がゆつたりと流れていく様子に、少し血が騒ぐ思

いがしました。そのパワーの集まりの中で占いをさせて貰える事で、少し力む自分がありました。心なしか早足で歩きテントに入り準備をしていると、すでに5〜6人程ならんでおりました。占う事への関心度のの高さを感じ、自分自身に気合を入れて待つていとさらに行列ができ、時間前でしたが始めることになりました。なだれ込むように席に座りだし鑑定開始となりました。ニコニコしながら聞く人、うなずきながら聞いている人等、様々な人間模様を垣間見た気がしました。いざ対面を占いを始めると、目は真っ直ぐにこちらを見、じつと耳を傾け真剣に聞き取る人が多く、自分自身の責任の重さを強く感じました。無料鑑定とはいえ、気持ちには完全にお客様でした。短いきめられた時間での鑑定に、上手に説明する難しさに悩みながらも、どの様な占い結果が出ても、一つは良いところを探し出し伝えようと心掛けておりました。最後に必ず大丈夫だよ！を付け加えると、席を立

つ時安心した顔で帰って行き、私も何故かホツとする感を受けました。秋の日差しは短くなり、夕方の五時に終了の時には回りも薄暗くなり始めて、他のテントの人達の片付けも早く、徹底した時間厳守がなされていました。松戸市民の素晴らしいを見させてもらいました。管理も行き届いており、今後の自分達の進め方に大いに参考になると感じました。占いも終了と共に、益々占いの難しさを実感！反省材料も多く、今後の課題も山のように見えてきました。悩みを多く抱えた人達が、解決の道を探しながら日常を過ごしている...そこに自分達の仕事がある事に、責任の重さを強く感じました。この先々色々な経験を積み様々な人の為になる様精進しなければと、自身への励ましの材料と考えながら帰路に付きましました。この度は、良き経験の場を与えていただき有難うございました。



第三十八回松戸まつり

森 千紗

平成二十三年十月一日(土)二日(日)の両日、松戸市と松戸商工会議所による東日本復興支援・松戸商工会議所創立六十年記念「第三十八回松戸まつり」が開催されました。各種パレードやダンスパフォーマンス・郷土の名産品販売等、様々な行事が用意された活気ある祭典は、地元根付き市民の皆さんに喜ばれています。NPO法人岳易館・有宵会では、会の理念に則つた活動の一環として二十年程前から、松戸祭りに参加させていただき無料鑑定会を行っています。今年の鑑定会では昨今の世相を反映し経済や仕事関連の相談が多く寄せられました。ここで今回お越しいただいたお客様の中で、職場の人間関係についてご

相談に見えた方の内容をご紹介します。その方は、昭和四十五年十月生まれ本命三碧月命六白の女性でした。今年の七月一日付けで移動があり、配置転換になつたところ新しい職場一緒に働く女性が仕事に対して非協力的で、あちこちでご相談者の悪口を吹聴する様な人らしく日常的に強いストレスを感じ転職も考えているとの事でした。仕事も自分に合っているのでは本当は辞めたくないが、問題の女性と上手く付き合うのは難しいのでどうしたら良いのか悩んでいますというご相談でした。本年、本命三碧は坎宮に同会し人を支え、尽くしていく役割を担っていますが努力の割に、それを認めてもらう事が出来ず不満が出やすい状態です。月命六白は巽宮に同会し、人の噂が気にかかり人間関係に悩みが生じやすい年回りでもありません。更に異動があつた六月は、本命が巽宮に同会し暗剣殺を持ちます。総合してみますと、案件のような状況になるのは納

得のいくところでした。

相手方との今後の見通し如何にで、卦をたてところ得卦・火雷噬嗑六五でした。この卦のこの爻位であれば、ご相談者にとつて障害となつてい相手より優位に立つことが出来るかと判断し、お客様には今の職場で忍耐し正しい行いをしていれば、五ヶ月後には職場の雰囲気も変わつてくると思ひますので、転職は考えず今の職場で勤められる事をお勧めしました。半年後にはお客様にとつて気持ち良く仕事が出来る環境になると思ひます。鑑定会等を通じて、多くの人に易学の素晴しさを理解していただけるように今後も努めて参ります。

おチヨさんへ

ご長寿のお祝いを申し上げます。その半生を見事に生き抜いてきたとのこと。素晴らしいですね。味のある言葉をお聞きしたいものです。

福田 有宵

おチヨさんと枕

並べて...

田中 寛子

百才のチヨさんは、敬老の日に都知事、首相、区長、ホーム長や

孫、曾孫、嫁さん達等から、お祝いの山に囲まれてベッドの上で、身動きが取れず
嬉しい悲鳴を揚げていた。
「どじょう(首相)からももろてなア」

そのチヨさん家に、私は一度だけ泊まつた事がある。
遠い親戚に不幸があつて、家族が弔いの旅に出たので、チヨさん一人が取り残されたからだ。
「オレも行きてエ」つて駄々こねたども」

チヨさんは口惜しくて悔しくてたまらないらしい。
私「独りになるのは初めてで無いの?」
私「初めてだつちやあ」
私「独りじゃ...夜が寂しいわなア」

「なアにイ。眠つちまやア...わからん」
私「負け惜しみを言うてるな?私と一緒に寝てやるか?」
「オツオツオウ!ホントか?」
チヨさんの眼が瞬時に輝いた。

「んだども...旦那が許してくれるかのオ?」
私「一晚 離婚する言うて出てくるわア」
「ア ア ア...オツカネエ」

チヨさんは、普段は床屋の二階の茶の間の卓袱台の前に座つている。
隠居生活が長くなつて、ずつとこの位置で暮らしている。
その晩二人は ヨイシヨイシヨと卓袱台を片付けて茶の間で枕を並べる事になつた。
チヨさんは、私が隣に寝てくれたので嬉しくて...浮き浮きと弾んでる。
チヨ「うまいこと...離婚して来てくれたなア」
私「おチヨさんの為なら火の中...水の中...つてなア。命がけよ」
「いやあースマン スマン」
私「何の これしきのこと...。ところで、おチヨさんはいつも何時頃寝るん?」
「九時だ...。毎日 九時だ...」
私「アレエツツ もう十一時だがいねエ」
「朝迄 起きてよてエ」

「こんな日は、めつたに出来ない事エー。二人で並んで寝れる日なんて...」
「やっぱ...。安堵するてエ...。アンタが泊まつてくれてエ...ありがてエ」

蒸し暑い晩で、網戸にしたままの窓からは、そよよとも風が入らない。
「どうせ 眠れんて...あちやくて...」
「と言いながら チヨさんは遠い昔語りを始めた。毒消し売りの後...家業を継ぐため、親方とこのへ修行に入つたこと...」
チヨさんの父親は、チヨンマゲ結いの床屋だったこと...
チヨ「田舎の床屋へ客が来るのは、盆と正月ぐれえのものさ...。そんじや食つてけねえからお菓子のためぐいを並べての村...。その菓子だつて 村じやー」
祭りの時ぐらいいしか売れねえ...。それで...タバコも始めたが...」
チヨさんは稼いで...稼いで...五人の男ばかりを育て 長男 次男を 床屋さんに仕上げた。

その長男夫婦と同居して、孫夫婦も同じ道を挟んで家業を支えてる。
「毒消し売りから もえつかえ(もう一度)東京に出て来たんは...50の年だつたかなあ?」
「まあだ まだ 働きてエ...年だつたからのオ...。電車 乗り継いで新築の家の掃除に通つたもんだア...。駄賃が がかつたんだあ...。この仕事はさあ...。だけれんど(しかし)毎日 仕事があるわけで ねえからなあ...」

「開けていた窓から、少し風が吹き込んで来た。時計は三時を回っている。チヨ「ヤ(嫌)な暑さだつたに、ちよこ(少し)ええ(良い)風が入つて来たなあ...」
私「ウン。ヤレヤレだねエ...。そろそろ寝ようか?」
チヨ「もつてえ(もつたいない)ねエ...。まだ起きてよてエ...」
そのチヨさんが「アツチへ逝つても、又一緒になるて...。アレ先に逝つて場所とつとくから...」と言つている。
私「特等席、頼むよ」
チヨ「ゼイタクな...」
おチヨさんと私は、異口同音に発する口癖がある。「腐れ縁だなア」と...
そして、二人で高らかに笑い転げてしまつたのだ。



大和の門跡寺院展』を拝して...

田中 寛子
大川 法祥

家さ 居る時やあ内職さ...。婆ちゃん、いい加減で手え休めつちや」つて家のものが案じる程夢中らつたあ
「ありやあ...オレの欲の根性がさせとつたな」
チヨさんは、だんだん頭像に心が曇ります。
先生御地は如何でし

たか？雲流れる様子を見
乍ら案じておりました。

台風が足早に去った今
日九月二十二日、かねて
より望んでいた大和三門
跡寺院の文化展へ足を運
びました。

○円照寺は以前に述べ
た通り、深い事情を知っ
ているだけに興味深いも
のがありました。

御水尾天皇の第一皇女
が草庵を始めたのが最初
で、円照寺開山に当り、
文智女王の血書般若心経
(展示)は信仰の強さの
証でありましょう。又

「爪名号」は、父御水尾
天皇の生前に切つて置い
た爪を黒塗りの板に貼り
つけ、仏の名号を作られ
てあり、父御水尾天皇へ
の追悼と仏道への帰依が
こめられており、幾星霜
経に現代、居乍らにして
生々しく拝せられるのは
驚異の極みでした。



○法華寺門跡(光明宗)
開基、光明皇后は、父不
二等の邸宅を皇后宮とさ
れ、後に宮寺とされたの
が法華寺の草創です。

仏の心をお持ちの光明皇
后は、後に菩薩と称され
ました。法華寺本尊十一
面観音像は、美しい皇后
のお姿を写したものと伝
えられています。光明皇
后の時より続く茶華道は
法華寺小池御流として今
に続き、皇后の遺風が継
がれています。

○中宮寺
聖徳太子が母の為に建立
したとされる日本最古の
尼寺です。私の心をとら
えてやまない、弥陀菩薩
は穏やかな微笑みをたた
え世界三大微笑像の一つ
と言われ気高い靈気を放つ
て幽玄の世界に導いてく
れます。

茶道は中宮寺御流、華道
は斑鳩流として御仏に捧
げる清楚な生花が今に伝
えられています。

円照寺は『花は野にある
姿枯淡素朴』をもつとっ
した。山村御流として広
く普及し今に至つていま
す。私の大好きな流派で
す。

最終のコーナーでは大
和三門跡寺院、それぞれ

の寺の行事のビデオ映像
を観賞する事が出来、独
自の歴史を歩んできた尼
門跡寺院の格式を垣間見
ることが出来ました。

満ち足りたひとときを
感謝しつつ、法善寺のお
不動様に参り帰宅すれば、
夕刻のニユースが、北海
道大雪山系の旭岳で初冠
雪が観測されたと報じて
いました。九月だと言っ
たのに驚きです。ひそやか
に季節は移る、気が付
けば北の国から秋の気配
が漂い始めているのだな
あ！と感じ入っています。

大川 法祥
伊藤 璃香

NPO法人岳易館・
有宵会 研修旅行
房総研修旅行

伊藤 璃香



第九回有宵会研修旅行が

十一月十五・十六日に行
われました。

朝七時三十分上野発。
先ずは車中で自己紹介。
何とそこに『私は自分を
観音様だと思っています』
との度肝を抜く言葉、長
老の一人の発言に早くも
観音様の影が：爆笑の渦
の中。

最初は『補陀洛山 那
古寺』。坂東三十三札所
の結願寺です。観音様は
『様々な世の音を観て』
相応の救いをして下さる
とのこと。福田先生の
『目の悪い方は良くなり
ますよ』と仰る声が彼方
から聞こえてきました。

一同本堂に入り、そこで
『特別護摩祈祷』を頂き
ました。一人ひとり名前
と願文を唱えながらの
護摩焚きです。炎は御本
尊の方へ揺れていました。
(私は旅行の数日前から
左目の瞼が腫れて軽いう
ずきに瞬きにも痛みが走
り、『物貰い』ではなさ
そうでしたが眼医者へ行
くつもり、が雑用に追わ
れてそのまま出発になつ
てしまいました。すでに
腫れは頬にまで広がって
いました。)

護摩供養が終わり説法
に入ります。私は自分の

左側に何かの気配を感じ、
そつと振り向
きました。何が何も見えず、
その内、涙が溢れて止ま
らなくなりました。温か
い涙でした。

お話も終わり外へ。そ
こには日本百景の一つと
される鏡が浦(館山湾)
が一望に開け、静け
さの中なんと雄大な景
観です。ふと気がつけば
目の痛みが和らいで腫れ
も少なくなつて
おり、翌日にはすっかり
治つていました。流石結
願寺です。

その後、「日本寺」・
「誕生寺」・「高塚不動
尊」・「安房神社」・「崖
の観音」と二日に亘つて
巡り
ました。高塚不動尊でも
福田先生から「心臓・肺・
気管支の悪い方は良くな
りますよ」との
こと。ここでは石段が苦
手の私にも、息切れする
ことなく自然に登れてびっ
くりです。

出発前に福田先生の仰つ
た「神仏詣では、自分が
選ぶのではなく、神仏の
方からご縁を頂
くのですよ。ご縁を頂か
なければ行けません。」

そんな言葉が頭から離れ
ません。そつこ
縁を頂いて行くんだ！
今回の旅行は初めから
何かが違っていました。

八十代の長老六名の方々
が参加され、石段あり急
な坂ありの道も少なから
ずありました
が、皆さん揃つて明るく
お元気で、参加出来た喜
びの気持が私にもはつき
りと伝わってきました。

かなり平均年齢の
高い一行でしたが、途中
の休憩時間・出発時刻な
どにトラブル皆
無、幸い交通渋滞もなく
予定通りの運行のうち、
全員笑顔で無事上野に帰
着しました。

先生はお別れのご挨拶
で、「来年もこのメンバ
で行きましょう」と力強
く言われ、楽しか
った旅も、神仏のご加護
を沢山頂いて、名残を惜
しみながら終わりました。

来年もまた皆さんお
元気でご縁を頂きに参り
ましょう。

伊藤 璃香
合掌

真言律宗 不退寺に

ついで

大川 法祥

先日お電話で話した不退寺の事が書かれています。本に出逢いました。符丁を合せたかの様に巡り逢う縁を不思議に思います。

『古寺めぐりの仏教常識』
浄瑠璃寺 佐伯快勝著

古都めぐりは発見の旅。より実り豊かな古寺巡りの為の本です。

佐伯様とは、一昨年行基会での史跡巡りの折、浄瑠璃寺でお逢いしています。薄暗い室内の仏像を真近に拝し、仏様のそれぞれの意味、上求菩提・下化衆生の印相の話を丁寧に説明して下さいました。

この本の終章に座談会の対話が載っており、京都・奈良の古寺住職様七名の思いが語られています。その中の『不退寺』の松村圭淳様のお話です。不退寺の本尊は観音様、その回りに不動明王等五大明王があり、現世利益、厄除け、安産と言った現世利益の仏様です。もともとは寺ではなく、天長三年（八二六）淋しくこの世を去った平城上皇の第三皇子・阿保親王、

更に同親王の第五子、在原業平と父子三代がこの屋敷に住みそれが寺となりました。

＊ここであの時ＴＶで見聞した「業平椿」との接点が見えかになり心から納得できました。

山あいの古寺には四季の巡りを教えてくれる樹木の色、草花の香りがあります。美しい浄土が眠っている仏性を覚醒させてくれるでしょう。

『現実世界こそが浄土』

仏教もだんだん進み、密教の思想が入ってくる。『密教浄土』等という言葉を用いて極楽浄土とあえて区別します。そこには、本当は現実の世界こそが浄土なのだと思いが強調されています。つまり、浄土とは死後にはじめて往ける世界ではなく、今現にいる世界がすべて浄土であるのに、それを人間の横暴で汚したり、くもつた眼で見るとから美しいものも汚く見えるのです。ここから成仏の可能性が開けてきます。密教では「即身成仏」という言葉を使うが、「生きとし生けるものすべて、仏性を持っている」ということからきたもので

す。仏になる可能性というよりも、むしろ本来仏の性質があるという事。仏の解釈は、人さまざまですが一言でいえば「慈悲の思想がある」それを実践できるときが、仏という訳です。

平安時代の中・後期にかけての貴族仏教は釈迦の教えの戒立をおろそかにした為社会が乱れてしまったという強い反省から、

『釈迦に還ろう』が、奈良仏教を蘇らせると多くの僧は情熱を燃やし興福寺の戒如上人等がその先頭に立ち、そして西大寺の觀尊に至って釈迦の根本精神を求める戒律の精神が確立する訳です。

この思想を真言律宗と呼んでいます。明治以前は西大寺流と呼ばれていたようです。

大川 法祥



小雪

二十四節気のひとつで、陽暦では十一月二十二日頃にあたります。今年は二十三日です。

太陽が黄径240度を通過する瞬間、または、大雪までの期間をいいます。立冬から数えて十五日です。

冷たい雨はこの頃から雪に変わり始め、いよいよ冬を迎える準備を進める時期となります。とはいえ、北国以外ではちらちらと雪が舞う程度の、寒さも雪もさほどではない頃です。『小雪』には『小とは寒さまだ深からずして、雪はまだ大ならざるなり』という意味があります。実際に降る雪の量や大きさを指す言葉ではなく、

読み方は「しょうせつ」です。

また、小雪の頃である十一月二十三日には、その年の収穫に感謝し、翌年の豊作を祈る皇室の祭儀である新嘗祭が行われます。（美しい日本の季節より）

事務局からのお知らせ

有宵会に賛助会費として以下の方々（順不同）からご寄付を頂きました。有難うございました。

- 堤 カズ子様 菅原 有恒様 久保田恵都予様 若林 シマ様 八川 林加様 岩崎 紀子様 吉田 和子様 藤岡 桂子様 吉田 侑加様 倉元 彩光様 今井 櫻子様 荻島 芳郎様（櫻子）濱野 延珠様 高田 玲照様 福安 友嘉莉様 小宮 有里様

事務局だより

次回の例会

平成二十四年一月二十八日（土）午後一時十五分より 足立区こども家庭支援センターにて開催。例会後に新年会を予定。



講演「新しい年への年筈・一年の見通しの解説」 福田先生

第九回の研修旅行（房総方面）が去る十一月十五・十六日、四十一名が参加して行われました。観音様に導かれて和気あいあい楽しい二日間の旅でした。福田先生の締めのお言葉は「来年も元気で一緒にしましょう」。

平成二十三年の有宵会も無事終了です。

大震災に見舞われた日本は大きな試練の年を過ごしました。一日も早い復興と被災された方々に心の安らぎが戻りますようお祈り申し上げます。

少し早いご挨拶ですが、どうかお元気で年末年始をお迎え下さい。

なお、九月の例会には五十九名の方が参加されました。

平成二十四年二月には初詣を予定しております。ご一緒にお参り致しますよう。

（日時・場所は検討中）

この一年、有難うございました。

事務局 伊藤 璃香